

4 プロジェクト第4号の取組

- (1) 連携先 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 坂本 めぐみ 教授
- (2) プロジェクト名
「児童生徒のインターネットゲーム障害の予防や早期発見のための研修・教材開発」
- (3) 期間 令和2年2月～
- (4) プロジェクトの目的
 - ・児童生徒のインターネットゲーム障害の状況を把握する。
 - ・インターネットゲーム障害の予防と早期発見を行うためのeラーニングによる研修プログラムを開発し、教材を制作する。
 - ・開発した研修プログラムの有効性を検証する。

(5) プロジェクトの計画

時期	取組内容	詳細	センターの関わり
R3. 2～5	小学校から高等学校までの養護教諭と学校保健主事に対し、インターネットゲームによる日常生活の支障が懸念される児童生徒とその対応の現状、求める支援について質問紙調査を実施する		アンケート配布、回収方法の相談
R3. 6～8	インターネットゲーム障害が疑われている児童生徒の事例調査	小学校、中学校、高等学校等で支援に困った事例を検討する	事例収集の方法の相談、事例に対する意見
R4. 4	eラーニング研修、授業教材等の企画制作と検証	教職員対象のeラーニング研修、授業教材等の企画と、制作後の検証(受講していただいてその効果を評価修正する)	意見

(6) これまでの取組

このプロジェクトは、指導相談担当の調査研究として、連携先教授をスーパーバイザーとして令和3年度から2年計画で開始された。そのため、(5) プロジェクトの計画よりも実施時期が全体的に遅れている。また、調査範囲を養護教諭と学校保健主事から教職員へ拡大し、児童生徒への質問紙調査も実施した。

令和3年度は、調査研究協力委員会を4回開催した。主な活動内容は下記のとおりである。

第1回	調査研究の目的と趣旨の共通理解 インターネットゲーム障害に関する講義、質問紙調査内容の検討
第2回	質問紙調査詳細内容の検討
第3回	eラーニングを知るための研修、質問紙調査経過報告 研修プログラムに関する意見聴取
第4回	質問紙調査結果の分析、学習指導事例作成の内容検討

令和4年度については、教職員向けeラーニング研修プログラムおよび学習指導事例の制作及び必要に応じて保護者向け啓発資料の作成を予定している。教職員向けeラーニング研修プログラムについては、「株式会社プラセナ・ストラテジック・パートナーズ」に協力を依頼している。作成したプログラムについては、可能な限り現場の先生方に受講いただき、意見を聴取できればと考えている。



▲会議の様子